



「看護部長あいさつ」

NTT 東日本東北病院 看護部長 鈴木 郁子

看護師になり 34 年が経過しますが、当時の時代から今 の医療や看護をくらべると多くの専門業務が増えていると 実感しています。それは、医療の高度化・進歩に伴い、患者さんにより安全で適切なケアが求められる時代になったことと、人口動態などの社会の変化により医療を受ける人々の背景が変化してきていることが大きな要因です。そ

のような中で、NTT 東日本東北病院は、その社会の変化に対応し地域から求められる病院としてチーム 医療体制の構築、地域連携強化など患者さんがかかりやすい体制を進めてきています。

患者さんは、入院治療が必要なときは病院へ来て治療を受け、治療が終了したら地域で暮らせるよう な支援をしていく必要があります。この支援体制を地域の関連の方々（医院、訪問看護・各福祉関連施 設など）と協力して進めていくことが大事だと考えています。

当院における地域連携の取り組みの特徴的なものの一つとして、退院調整した患者さんの在宅ケアカ ンファレンスを 50 回以上開催してきたことがあげられます。これも地域連携活動の一環と、この会を通じて地域から評価をしていただき、より患者さんが安心して地域で暮らしていく病院機能を構築し ていくことだと考えています。今後も、在宅ケアカンファレンスを継続していきます。

当院の中でも大きな組織の看護部は、看護師・助産師・介護福祉士・看護補助者を含めて 203 名の 体制となり活動しています。開院当時からの看護理念「質の高い看護、思いやりある看護」を念頭におき、人材育成に力をいれ新人看護師を確保し、看護師全体の教育システムも整えて進めてきました。さらに、専門領域の感染管理、がん化学療法、皮膚排泄の分野で認定看護師を誕生させています。今後は、当院 の医療課題を遂行するため呼吸ケア、脳卒中リハビリ、糖尿病の認定看護師の育成を計画し、地域の皆 様の医療要望に答えられるように進めています。尚、これらの専門領域の認定看護師を地域で活用して いただくような取り組みも始めました。

今後も看護部を含め NTT 東日本東北病院は地域の皆様といっしょに地域医療に貢献していきます。

病院理念

人権と生命の尊厳を守り、心のこもった 温かい良質な医療の提供に努めます。

～目次～

○看護部長あいさつP.1
○糖尿病関連P.2
○市民公開講座、認定看護師紹介P.3
○新任医師紹介等P.4

第4回 糖尿病連携セミナー



小沼富男教授

11月25日(火)、第4回目となる糖尿病連携セミナーが江陽グランドホテルで開催されました。当日々NTT東北病院内、院外の先生方64名を含む100名超の来場がありました。

講演は奥口内科クリニックの奥口文宣先生を座長に臨床講演が『スマイルチェックシートを用いた高齢糖尿病患者 低血糖に関する実態調査』をやまもと内科クリニックの山本匡先生、『高齢糖尿病患者の低血糖症例について～病院の立場から～』を当院内科の大和一美医師が発表しました。特別講演は当院佐藤譲院長を座長に順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センターより小沼富男教授にお越しいただき『高齢者糖尿病の薬物療法の実際と注意点』を講演いただきました。

講演中、スライドをカメラにおさめる方やメモを頻繁に取る方が多数いらっしゃいました、来場者数からみても今回のテーマである高齢者の糖尿病について関心が高いこと、糖尿病連携による啓発の重要性がうかがわれました。

世界糖尿病デー イベント開催

11月14日(木)の世界糖尿病デーにあわせて、当院の糖尿病チームが受付前ロビーで糖尿病啓発イベントを開催しました。ご自身やご家族が糖尿病なので先生に相談したいことがある方、気になることがあるので少しだけ相談したい方、外来受診された患者さんから医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士がそれぞれのブースで相談をうけました。「こんなに丁寧に話を聞いて、指導してもらったのは初めてです」と言っていただきました。病院スタッフにとって患者さん、一般の方の興味を知ることができ、とても有意義なイベントとなりました。



奮闘したチームの面々



相談風景

市民公開講座



第35回

「ヘリコバクター・ピロリ菌と胃潰瘍・胃がん」

消化器内科 鈴木 健司 医師

上部消化器疾患（胃潰瘍など）におけるピロリ菌の感染率は非常に高く、菌の除去により高い確率で症状が改善します。また、早期の胃癌も治療後にピロリ菌を除菌することで再発のリスクが減少するという報告もある、と鈴木先生。

(H25.9.18)

第36回

「呼吸器患者の『身体で測る健康度』」

呼吸器内科部長 高橋 譲至 医師

日々の活動量の低下は死亡リスクを高めます。できるだけ外出をしたり、好きなことを続けて身体活動性を向上させることが最も大事です。自分にとっての安全な息切れの程度を知りましょう。息切れがあっても歩くこと、歩数が多いほど生活の質（QOL）が良好になり長生きができる、と高橋先生。

(H25.11.20)



認定看護師紹介



がん化学療法看護認定看護師 勝又 夏子

私は2013年7月にがん化学療法看護認定看護師の資格を取得し、現在、外来化学療法室と3階病棟を兼務しています。

新薬の開発が著しく近年では5年生存率の向上を背景に、治療を受けながら生活、就労を続ける人も増えています。がん化学療法は、治癒を目指す治療から症状緩和に至るまであらゆるがん腫に対しても幅広く行われ、がん化学療法を行う場は病棟から外来、在宅へ移行しています。

私はこのような背景から、がんと告知された時、治療期、その後の経過観察の時期、終末期へ移行する時期と治療を続けながら迎えていく転換期の患者さんとの関わりを特に大切にしています。就労や子育てなど、その患者さんのライフステージを考え、がんがありながら生活者であるという視点を大切に社会的、精神的な支援も重要な役割と考えています。

患者さんが安心して安全に治療を受けるために、患者さんの病気や治療に対する思いに寄り添い、その人らしい生活を送ることができるよう症状緩和や患者さんへの教育、治療環境やシステムの整備を行っていきたいと思います。そしてがん医療にはチーム医療が不可欠であり、患者さん中心のチーム医療も推進した活動を行っていきたいと考えています。

新任医師紹介



みなと たか ひろ
産婦人科 淀 敬廣 医師

10月より産婦人科で診療しております、
湧と申します。東北大学病院の産婦人科から参りました。まだ慣れないことが多いですが、地域医療に貢献できるよう精一杯頑張ります。よろしくお願ひ致します。

■お世話になりました

産婦人科
渋谷祐介先生
(H25.9月末まで勤務)

「病院への声」 感謝のおことば、ありがとうございました。

先日は「劇団わらび座震災復興特別公演」に出席させて頂きまして、誠に有難うございました。お連れした利用者様の喜びようにお礼を申し上げたく、お便りさせて頂きました。

先日一緒に伺った女性利用者様は、御歳 90 歳になられます。若い頃からピアノやお琴に親しまれてホームに入居後も、長年電子ピアノを弾いて合唱の伴奏を勤めてらっしゃいました。しかし、認知症の進行により様々な記憶を失っていくのはこの利用者様とて例外ではなく、徐々にピアノを奏てる事が難しくなってしまいました。

(中略)

ピアノを弾けなくなってしまっていたこの利用者様が、喜色満面、音楽に合わせて正確に手拍子をとり、テンポもしっかり刻み、打楽器を打つ仕草をみせていました。この光景を目のあたりにして、私は音楽の持つ力を実感いたしました。わらび座の方も演奏中近くまで来てくださいり、彼女は尚更大喜び。ありがとうございます。

司会の方の特段の御配慮により劇団の方と記念撮影もして頂き、この利用者様にとってこの上なく良い記念となりました。他の観客の方にも配慮されて、男性の劇団員の方が玄関で丁寧にお見送りしておられるのを見て、頭が下がる思いでした。

皆様の格別なご芳情に、厚く感謝する次第です。
今後とも宜しくお願ひ致します。
【H25.9.30 ケアマネジャーさんより】



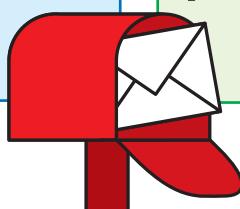
普段から当院へは患者様や地域の皆様、関係機関の方々からたくさんのお声を頂戴します。内容は厳しい意見や感謝まで様々です。その中から今回は心温まる、病院スタッフ一同感激のお手紙をご紹介させていただきます。

調理場・給食スタッフの皆さんへ
—感謝のことば—

9月2日にこちらの病院に転院して以来今日まで、いわゆる病院食をこんなにまで樂しみに味わわせて頂き、感謝に堪えません。

味も見た目もバラエティーに富んでいて、その分だけスタッフの方々のご苦労も多かったものと拝察致しますが、本腰を入れてのお取組みを、しかど私は味覚として捉えることが出来ました。重ねて御礼を申し上げます。今後共変わらぬご方針の下、入院患者に喜びをお与え下さるよう祈っております。

【H25.10.31 入院患者様より】



〒984-8560 仙台市若林区大和町2-29-1
NTT東日本東北病院

地域医療連携室

TEL 022-236-5899
FAX 022-236-5920